平成　26　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4270800396		
法人名	有限会社グループホーム　高野の里		
事業所名	グループホーム　高野の里	ユニット名	
所在地	長崎県松浦市志佐町高野免631-4		
自己評価作成日	平成26年9月26日	評価結果市町村受理日	平成26年11月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般財団法人　福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11　サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成26年10月9日	評価確定日	平成26年11月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な雰囲気の中で利用者様に「ゆっくり、楽しく、安心した」時間を過ごして頂けるよう、日々努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

“グループホーム高野の里”は開設10周年を迎える。代表の自宅を改装したホームは家庭的で、庭の植木の剪定が綺麗に行われ、必要な場所の修繕や畳替えも適宜行われている。台所では畑で収穫した野菜の皮むき等をご利用者と行い、ソファーや椅子が置かれた10畳の和室では洗濯物たたみやレクリエーション、トランプ等を楽しまれている。物音に敏感なご利用者に配慮し、一時中断していた“歩け歩け運動”も少しずつ再開し、ご利用者個々のシートに運動記録が残されている。日々の活動を通して、ご利用者の活動意欲や体調、認知力の変化を観察し、小さな変化も受診時に主治医に報告しており、早期対応に繋げている。管理者、介護支援専門員や職員の方々は、常に「何かできることはないか」を考えており、今後も瞬間に感じる喜びを増やすと共に、子ども達との交流の機会を作っていければと考えている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	言葉ずかい、態度は、日々生活の中で理念に基づいた介護を行うように努めている。介護現場においても職員間で話合いながらさらなる実践につなげていきたい。	“ご利用者の人権を尊重し、家庭的な雰囲気の中で、皆様と一緒に「ゆっくり、楽しく、安心して」・・”が理念であり、おしゃべりをしながら洗濯物を畳まれたり、テレビを見ながら団欒されている。管理者、職員を含めて言葉遣いを振り返り、お互いに注意できる環境が作られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の体調を考えて去年今年と夏祭りは当ホーム内での開催でしたので地区の方の参加者はなく、家族の方2組来られました。来年は屋外での開催をするようにして地区の方にも参加出来るように努める。	町内会に入り、回覧板なども届いており、施設長が地区の一人暮らしの集いや地域清掃に参加している。松浦水軍祭りにも参加し、近所のお宮に初詣に行かれている。敬老の日には、地区の区長や婦人部の方がお祝いを届けに来て下さっている。	今後も引き続き、ホーム行事に地域の方々に参加して頂くと共に、施設長が教育委員会等に出向き、小学生の体験学習の受け入れや幼稚園児などの子ども達との交流を増やしていく予定である。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のイベント、商店街での買い物、地区のミニ演芸会のお誘いに参加。定期受診で地区の病院に行った時や、散歩の途中で声かけをいただいたりしながら、普段の生活の中でのかかわりのあり方等を発信していけるよう考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	その時々に応じたご意見をいただき、より一層のサービス向上に役立てるために、努力しながら頑張っています。	会議の中で地域情報を教えて頂き、ドライブ等に活かしている。26年9月には上志佐駐在員の方に参加して頂き、振込詐欺などの情報を聞く事もできた。今後も地区長の方や松浦消防署の方々への呼びかけを続けると共に、参加者や家族に自己評価（外部評価）結果を配布予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者の方からの連絡、指導等がある。積極的に取り組みたい。又居宅事業所研修会へも参加して収集に努めている。	市の担当者に運営推進会議の議事録を届けている。介護支援専門員の方が各種手続きに関する書類の書き方などを相談しており、市の担当者も丁寧に説明して下さっている。メール等で研修等の情報も頂き、研修の時は地域包括の方や他施設の方々と情報交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間防犯の為に施錠しているが、基本的に玄関等の施錠はしていない。身体拘束をしない取り組みで継続している。	身体拘束の無いｹｱを続けており、身体拘束廃止対策委員会で毎月の振り返りをしている。穏やかに過ごされている方が多く、日々の役割を担って頂いたり、一人でﾎｰﾑ周辺を散歩される方もおられる。感情が不安定な方にも職員が寄り添い、穏やかな表情が増えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修等にも参加、又ミーテング、ケア会議、自己学習の中で虐待があってはならない事として防止の徹底に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	情報などは回覧板、パンフレット等での学ぶ機会があるが具体的な取り組みはまだ行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前少なくとも、1度はご本人と会い、ご家族の方とは必要に応じてお会いし、ご本人、ご家族の不安、疑問点を尋ね、理解、納得が得られるように十分に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入口の見やすい所に意見、苦情受付箱を設置している。ご本人の生活、医療関係を記録した「経過表」及び領収書も郵送している。今後も運営推進会議等の中でご家族の意見などもいただくようにしている。	家族の面会時に状況報告し、要望を尋ねている。家族から結婚式の出席希望が聞かれ、外出前後の体調管理が行われたり、駐車場の要望もあり、駐車ｽﾍﾟｰｽの検討を続けている。今後も運営推進会議の議事録や自己評価（外部評価）結果を家族に郵送し、ﾎｰﾑの取り組みを報告予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員ミーテイングにおいて意見や提案を聞きながら実施している。また日頃から意見を聞き実施、反映させている。	管理者や介護支援専門員などが職員の個人的な相談に応じている。ﾐｰﾃｨﾝｸﾞ時に、母の日や夏祭り、敬老の日等の意見交換を続けており、職員から外出への意見も多く、施設長が車いす対応の車両も購入して下さった。環境面の意見も聞かれ、畳替えなども行われている。	研修報告書を記載し、研修資料も添付している。今後は更に、職員個々に参加した研修内容の報告会を確実に行い、施設長、管理者等も含めて、研修内容の情報共有をしていく予定である。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力は代表者として理解はしています。働きやすい様にはしていますが、経営的な事もありすぐに給与等に反映出来ませんが、今年は消費税が上がった事もあり少しですがアップをしました。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、職員に関しては出来るだけ外部の研修会には参加出来るように努力しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	お互いの施設を見学したり、行事に参加させていただいたりしているが人的、時間的に余裕がないのが現状であるため、ケアマネ会主催の研修会に参加して色々な施設との交流が出来る様に働きかけている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人に寄り添い共に行動する事、出来るだけ話をする機会を設け良く話を聞く事で、その中で困っている事、不安な事を聞出せるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の面会時等、話し合える時間を持ち、ご本人の状況を伝えたり、意見、要望等を聞くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の要望を重視してサービスの提供が出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	レクリエーション、後片付け、テーブル拭き、お互いの家族の話、TVのドラマ、報道等などその時々の話題を盛り込みながら、喜び、悲しみを共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	母の日、敬老会、クリスマス会等に家族も参加して頂き、家族と共に過ごして頂く為に時間を大切にと努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅にドライブを兼ねて訪れている。本人の希望があれば付き添っている。毎年正月には地域の神社に初詣に出かけているが今年は少人数だけ行かれる。	家族や友人が送迎し、自宅に帰宅される方もおられ、家族とお墓参りに行かれたり、買物に行かれている。「馴染みの散髪屋に行きたい」と言う事で、職員が送迎したり、貯金を降ろす時の支援も続けている。家族の面会が難しい方もおられ、ご本人の寂しさへの寄り添いも続けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	今年は居室にテレビを設置されている方がいますが、なるべく声かけをし娯楽室などでレクリエーション等をとうして関わりあえる様に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中はお見舞いに行き関係者から病状、経過の情報を得る様にしている。また家族の負担が少しでも軽くなるのではないかと、洗濯物、その他にも支援等に努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自らの意向などきちんと答えられる方は少ない。毎日の生活の中での、一人ひとりの表情、その時々のさりげない言葉やトーンなどから、その人の思いを汲み取り計画に生かせるように努めている。	ご利用者とゆっくりお話しをしながら、希望を伺っている。食事の好みや外出先の希望などを伺い、介護計画に反映している。入居前にﾃﾞｲｹｱに通っていた方が、「顔見知りの方と会える機会を失いたくない」と言う希望があり、同病院のﾘﾊﾋﾞﾘ受診の時に交流できる支援を続けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、医療関係者、福祉関係者から情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定、食事、排泄、睡眠状態、精神面の観察、記録、申し送り等において把握するよう努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成前にご本人・家族の希望や要望を聞き情報収集している。毎日の申し送りや会議の中で話し合いながら現状に即した介護計画を作成できるように努めている。	介護支援専門員が原案を作成し、全職員で検討している。計画には「発語を増やす取り組み」やﾘﾊﾋﾞﾘ、買い物等と共に、3表に24時間全体のｹｱが記載されている。今後は、職員も介護計画が作成できるように指導を行うと共に、日々の記録の在り方も見直していく予定である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、介護日誌、モニタリング（1回/月）状況が変わればその都度話し合い、その都度計画の見直しに生かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所前にデイケアに通っていた方が、顔見知りと会える機会を失いたくないとの希望があり、リハビリ受診を援助するなど、その時々に応じて職員間で話し合って対応している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のご婦人がお話し相手になりたいと不定期ですが来所がある。地域で開催される映画鑑賞会などには参加させてもらっている。職場体験なども受け入れられるよう検討中。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望される医療機関に受診している、検査結果についても、速やかに報告しなければならないことは電話で報告、場合によってはDrから直接、病状、検査結果を説明してもらるように働きかけている。	通院介助は職員が行い、日々の体調や心身状況を主治医に報告している。認知症専門医が少ない地域でもあり、症状によっては精神科に相談している。受診状況や生活記録、食事量、ﾊﾞｲﾀﾙ、排泄状況などを記録した「経過表」を毎月家族に郵送し、面会時にも報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々介護現場の中で、朝・夕引継ぎ、申し送りの場をとうして速やかに情報を伝え、看護者から病院看護職、Drに相談、指示を受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は出来るだけお見舞いに行き馴染みの関係を欠かさないように努め、場合によっては洗濯物を持ち帰っている。必要時は主治医から病状、経過の説明を受けたり、入退院時は病院看護師と服薬、身体状況等の情報交換を行い状態把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族より「どうかあったら病院に連れて行って下さい」と言われる事もあるがそれ以上の事が言い出せない状況もある。今後本人、家族の方との話合い、説明等が十分に出来る様に取り組んでいけるよう模索中である。	往診や訪問看護事業所が近隣に無く、終末期は協力医療機関で対応して頂く事を家族に説明している。要望に応じて特養の申込み支援も行われている。「退院後もﾎｰﾑで…」と希望される方もおられ、ﾎｰﾑの準看護師と職員、主治医と連携し、ﾎｰﾑで対応できる事を精一杯させて頂いている。重度化予防のためにﾘﾊﾋﾞﾘ等も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃より、利用者の正常な状態を把握し異常の早期発見、初期対応が出来る様に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	施設の立地条件に限界がある為、火災に対しては訓練をとおして確認し合っている。	大雨注意報等は、市役所から防災無線で情報が入る。年2回の昼間想定の訓練では、消防機器会社の方にも参加して頂き、訓練の状況は消防署に報告している。毎年、消防署からの設備点検を受け、ｽﾌﾟﾘﾝｸﾗｰ等の定期点検も業者から受けている。災害に備え、水や缶ﾊﾟﾝ、ﾗｰﾒﾝ等の食料、応急ｾｯﾄ、懐中電灯、排泄ｾｯﾄ、ｶｾｯﾄｺﾝﾛ等を準備している。	松浦地区全体が山崩れによる地すべり等の危険地区という事もあり、行政による補強工事も行われている。今後も引き続き、施設長が中心になり、地域の協力体制を含め、自然災害時の避難計画を作成予定であり、消防団や消防署との訓練や夜間想定の訓練も検討していく予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	時に名前を呼ぶ事もあるが、尊厳と親しみをもって接している、誘導時の声かけ、特に排泄介助は扉の外で待機し自尊心、羞恥心に配慮した援助をする様に努めており継続して行きたい。	職員は、ご利用者と同じ目線で会話するように努めている。介助を拒まれる時にも理由を分析し、個別の対応を続けているが、管理者、職員全員で言葉遣いへの注意を続けている。守秘義務に関しても重要事項に記載し、ご利用者から見えない場所に各種書類を保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	年々重症化しており自分の意見を表出する事が困難になっている。何気ない会話の中からも思いを拾いだす様に、質問しやすいような投げかけでご本人の思い、希望を聞出すように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースに添った、希望に添った支援が出来る様に努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類等については、色、デザイン、ご本人の希望を第一にと考え、着替えについても選択出来るように風呂日には着替えの服を準備していただいている。髪カットも希望の長さ等を確認している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食、郷土食については献立を相談したり、野菜の皮むき等の参加して頂いている。食事も利用者、職員と同じテーブルで同じものを食している。食後は退膳後のテーブルを全員で拭き、片付けを行っている。	3食手作りしている。以前、栄養士から頂いたｱﾄﾞﾊﾞｲｽを日々の献立に活かしており、畑で収穫した旬の野菜を使用し、馴染みの“ちらし寿司”等も作られている。ご利用者個々の好みに応じたｶｯﾌﾟ麺を楽しまれたり、外食にも行かれている。ご利用者も下ごしらえ等を手伝って下さっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事摂量のチェック、飲水量の確認を行い栄養管理に気をつけている、お1人お1人の摂食機能に応じた工夫を行いながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	洗面所には中々行こうとされない方に、毎食後、お茶を用いてテーブルで「うがい」を行ってもらっている。他の方は洗面所使用され、就寝前に義歯の洗浄、消毒介助で実施している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックをする事で本人の排泄パターンを把握し、定期的に声かけで対応できている。	排泄が自立している方もおられる。個々に合わせてトイレ誘導を行い、パッド使用などの検討も続けている。羞恥心に配慮し、排泄中は扉の外で待機しており、ご本人から排便状況も教えてもらっている。排泄時のみ手すりを持って立てる方もおられ、トイレでの生活リハビリを続けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜、繊維性のある食材を使用しての献立に工夫をしている、毎食のお茶の飲水量を確認しあっている。日々生活の中での室内での運動を個人の機能を考えて取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1人週2回を基本にしている。入浴を好まれない方には、他のご利用者さんより『気持が良かった』と一言声かけをしてもらっている。入浴を楽しく入ってもらう為に順番をくじ引きで決めて入浴前の雰囲気つくりと平等、公平にと工夫している	入浴好きな方ばかりで、回数や時間等、希望に応じた支援が行われている。原則週2回の入浴になっているが、それ以上の入浴も可能で、適宜シャワー浴も行われている。毎朝清拭タオルを渡し、拭いてもらっている。入浴時も自分でできる部分は洗って頂き、職員との会話を楽しまれている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具類の定期的、随時の交換、洗濯、日光消毒など、衛生、清潔面への支援をし、昼間の適度の運動により夜間の安眠への支援をしている。寝具類は自宅からの持込で気持ち良く安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お1人お1人の病名、服薬確認、把握に努めている。処方時の薬、文献を確認し、目的、副作用、用法、量など複数の職員で確認出来るように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴をふまえた、個々の生活、機能に合わせた役割で楽しく気分転換が出来るよう働きかけに努めている。(皮むき・洗濯物たたみ・ゴミ箱作り・新聞折りなど)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人希望にて自宅に行きたいから連れて行ってと言われるので職員付き添いにて行かれるも、家の鍵が無い為、自宅内には入れずに外観だけ見て帰ってこられるので、今後は家族の方に連絡をして協力して頂けるように支援をしている。	ホームからの見晴らしが素晴らしく、周辺の散歩と共に、近隣の方の庭に咲く藤の花等を見学させて頂いている。車いす対応の車を購入し、御厨や不老山公園での花見や海のふるさと館に出かけたり、市内のドライブを楽しまれている。病院受診後にダイエーに寄られたり、近隣の町の皮膚科受診の時に“100均”のお店で買い物をされている。	市内のホテルで外食をするなど、外食の機会は増えている。今後も外出の機会を増やすために事前の下見などを行い、水族館でクラゲを楽しむなど、その時々の喜びを増やす取り組みを続けていく予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の理解があれば所持して頂いて、衣類の購入、受診時の飲み物買ったり帰りにお店によって買い物が出来る様に働きかけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をされる事は少なく、介護者が促し、やり取りが出来る様に支援している。自ら電話される方もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じてもらえるように、玄関、テーブルに季節の野花を飾ったりしている。天気の良い日のおやつはテラスでの景色を見ながらお茶会を楽しんでもらっている。お風呂もゆっくりと入っていただく為にお1人づつ入ってもらっている。	利用者同士の関係性にも配慮し、ﾘﾋﾞﾝｸﾞの席替えをしている。和室のｿﾌｧｰでは体操やﾚｸを楽しみ、お好きなﾃﾚﾋﾞを見られている。廊下には行事の写真や季節に合わせた手作りの作品が飾られ、日光浴を兼ねて、外のｳｯﾄﾞﾃﾞｯｷでおやつの時間も作られている。中央ﾌﾛｱｰにはﾏｯｻｰｼﾞ器もあり、ｿﾌｧｰでの会話も楽しまれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	娯楽室、食堂でテレビを見られるが、自分の好きな番組を部屋で見られる方もおられるが、娯楽室に来て皆様と一緒の番組を見られている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具類、家具類(整理ダンス)、収納ボックスなど、居室には家族の写真、家族が作った小物、人形などを飾ったりして心地よく過ごして頂けるように工夫している。	体調に応じてホームで特殊寝台をリースしている。たんすや大好きな洋服、家族の写真、ぬいぐるみ等を持ち込まれている。ラジカセで大好きな演歌を聞かれる方や、ホームの針と糸を使用し、洋服のほつれ縫いをされる方もおられる。自然の風を取り込みながら、換気も行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内、衣類等の整理整頓が安全にわかりやすくする為に見やすい高さにしたり、各居室・トイレには名札を付け、理解が困難な方にも良く説明をして、誘導している。		